



Super Professional High School

HSJ 通信 Vol.30

新潟県立加茂農林高等学校

〒959-1325 新潟県加茂市神明町 2-15-5

TEL 0256-52-3115

URL <http://www.kamonorin-h.nein.ed.jp/>



第28回全国産業教育フェア山口大会 さんフェアやまぐち2018の報告①

山口県で行われた標記大会の「スーパー・プロフェッショナル・ハイスクール事業発表会」が下記の日程で開催されました。ここでは、SPH事業の研究指定校の生徒による実践発表や事業を通じて学んだ成果等についての発表とポスター展示を行い、本校は、ポスター展示でSPH事業の説明を行いました。専門高校の様々な取組をご覧ください。

○日時 発表 10月20日(土) 13:00~16:30 ○会場 維新百年記念公園スポーツ文化センター 視聴覚室(発表)、エントランス(ポスター展示)
ポスター展示 10月20日(土) 10:00~16:30 〒753-0815 山口市維新公園四丁目1番1号
10月21日(日) 9:30~15:30 TEL083-922-2754(管理事務所)



研究課題名 **HSJ (Hop Step Jump) カリキュラムによる自立型地域リーダーの育成**
～協働的課題解決能力と自己教育力を兼ね備え、自ら未来を切り拓く人づくり～

研究目的 農業の未来を切り拓く自立型地域リーダー育成に向けた教育のシステムを開発するとともに、その教育モデルを全国に発信する。

取り組む4つの研究
①**HOP** 学びのレディネスを形成する
②**STEP** そのレディネスを活かして多様な学びを実践する
③**JUMP** 多様な学びの集大成として取り組む「課題研究」
④研究成果の広報・普及活動及び教職員の技術共有

Hop 研究テーマ
①自ら目的・目標を設定して課題解決能力を発揮するための研究(課題解決能力)
学び方ガイドブックで、スケジュール・日誌を記入し、RPDCAサイクルを意識する。目標達成の思考、行動する力を育成する。
②多様な他者と協働的な取組を行うための研究(協働性の力)
信頼関係を作るピア・サポート・トレーニングを実施し、協働性の力のレディネス形成を図る。
③自己教育力を育むための研究(自己教育力)
エゴグラムから対人関係の特徴を捉え、他者サポートをする際に自己理解が必要なことを学ぶ。

Step 研究テーマ
①機能別に体系化した外部機関連携に関する研究
下記に内容を示した。
②全教科で取り組むアクティブ・ラーニングの研究
「主体的・対話的で深い学び」の授業実践及び職員研修の実施。
③農業の専門性を高めるコース間の連携に関する研究
他コース「課題研究」等の学習支援。生徒相互の学びを深め、専門性を高める取組。
④自己教育力の発揮に関する研究
アグリマイスター顕彰制度を理解し、制度に必要な資格取得に向けた取組。
⑤多様な学習成果の評価手法に関する研究
「目指す人物像」から評価基準を作成する。また、各単元別に観点別評価を用いる評価基準、ルーブリックの点検・見直しを実施。
⑥中核的生徒(FS)に関する研究
別ポスターに内容を示した。

Jump 研究テーマ
①外部機関と連携した協働的課題解決学習に関する研究
2・3学年「課題研究」において外部機関と連携し、指導方法を確立する。
②「課題研究」の取組と関連させたキャリア教育に関する研究
クラス担任とコース担当が協力し、生徒のキャリア発達をサポートし、進路実現に向けて組織的に取り組む。

【機能別に体系化した外部機関連携に関する研究】

インプット型連携
専門的な知識・技術を学ぶ

トレーニング型連携
技術習得を目指す

アウトプット型連携
取組成果を発表する

新潟県内の大学、研究機関、農業関連企業、農家等の教育資源を活用し、専門性の高い授業を実施した。また、先端技術講習会、講演会、現場見学会、大学等の出前授業等を各コースで企画し実施した。

「課題研究」における大学や研究機関との連携及び、2年生で実施するインターンシップ等の充実を図った。また、参加者数の増加を図るとともに、農家等の事情に合わせ、長期休業期間外でも実践体験ができるようにシステムの構築に努めた。

アグリ・スタディ・ツアーとして、地域の小中学生を対象に体験型プログラムを実施した。このツアーでは、生徒が指導者となり、苗の定植等の体験を通して子どもたちに農業の楽しさや命の大切さを学んでもらうと同時に、生徒の農業に関する知識・技術に対する理解の深化を図った。また、地域の小中学校、特別支援学校と連携・交流を図り、普段学んでいる学習内容を教え、専門性を高めた。

インプット型連携

トレーニング型連携

アウトプット型連携

展示したポスター(2枚)

【中核的生徒(FS)に関する研究】

中核的生徒(FS) FSとは、Frontier Supporterの略であり、本校の造語。Frontier(開拓者)の文字には、未来を切り拓く将来の中核的農業指導者となることへの願いが込められている。

取組内容 将来、農業の指導者を希望する生徒が、海外研修で異文化や食料事情、異国の農業事情を学ぶことにより、グローバルな視点を養う。また、JICA研修会で、地球上の諸問題を理解し、農業を学ぶ自分たちが地域で何ができるかを考え、「課題研究」の取組等につなげる。さらにその学びを波及させて、成長につなげ全体のレベルを高める。

シンガポール海外研修【3つのキーワード】
①多文化共生社会への理解 ～日本の将来像を考える～
②地球的課題の探求 ～SDGsの視点～
③農業(食料)の事情～持続可能な農業とは～



MADRASAH ALJUNIED AL ISLAMIAM (語学学校)での英語学習・校内見学・文化交流

農場見学

○普段接することがない多民族共存の様相を理解できた。
○学校、B&S、農場において活発な交流体験ができた。
○「セルフエンパワーメント」、「コミュニケーション力」、「変化対応力」等、グローバル人材に必要な要素を実践できた。
○貧困や飢餓は、農業の力で解決可能であることを学習し、農業が果たす役割の重要性と持続可能な農業を考えるきっかけとなった。

平和学習

研修活動報告

【SPHアンケート】平成29年度末に生徒、職員に対し、アンケートを実施した。(4段階評価)

